週刊「考歴民」 No30 2021.10.18

交野古文化同好会

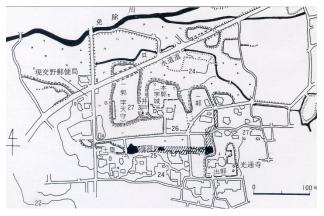
考古・歴史・民俗の頭文字を取って考歴民 (こ れみ)と名付けました。

今、私部 城 でっせ !!!









私部城跡縄張り図

奇跡的に残る平城あと、歴史上は「交野城」の 名で知られる。南北300 位、東西400 位で本郭を 中心に、西に天守、東に三郭 (現・住宅地)、内堀 出郭で構成される連郭式の形を残しています。



「土の城」本郭北側切岸

近世の城と違って、天守閣や石垣のない土でつ くられ、周りは堀と湿田に囲まれた城でした。 また、2011年7次の発掘調査で弥生時代の竪穴住 居2棟が発見されました。



私部城址現地説明会(2011.7次)



竪穴住居遺構

本郭の下層に、弥生時代の居住跡があったこと がわかった。

見晴らしの良い高台に改変を加えて私部城が築か れていたこともわかりました。

- 【隣】大阪府下で確認されている城跡は
- 【考】475ヶ所、旧北河内における中世城館跡は33城跡が確認されています
- 【隣】すべて、平城ですか
- 【考】山城が24城、平城9城で遺構確認が出来 るのは私部城だけです
- 【隣】ところで城主はだれですか
- 【考】安見右近です。右近の死後、安見新七郎と いう人物です
- 【隣】文献に城主のことが書かれていますか
- 【考】「信長公記」には、三好三人衆方に対する 信長方の勢力の城として、畠山秋高の高屋 城、三好義次の若江城など守護クラスの人物 が治める城とともに、「片野」に安見右近の 私部城があったことが記されています

「交野市文化財だより」第 23 号より-部抜粋 戦国時代の城というのは、基本的には土でできた土木施設です。今でも、関ケ原(慶長 5 年1600 年)以前のお城の建物は日本には一例も残っていないわけです。

それは、戦いで燃えたというわけではなくて、残るような建物を建てていないということです。 農作業小屋程度、あるいは盆踊りのときの櫓程度 ですから残るはずがないわけです。

> 平成 23 年度交野市市民講座講演より 滋賀県立大学准教授 中井均氏

【考】よく言って下さいました!!!

というのは、私、畑で私部城を再現した所 あまり良くは言ってもらえませんでした。

「考歴民」愛読者の皆さんこれみて!

以後、発掘調査からいろんな発見があり、文献 で記されていることが考古で塗り替えられていく ことなど、まだまだ私部城は甦っていくでしょ う、でも今のうちに。



私部城想像復原城郭(平田政信作





私部城を愛する人からお��りを乞うかも



いま、甦る!!私部城 (想像復元 鳥 瞰 図より)

- 【隣】織田信長公もやって来られたそうですね
- 【考】『信長公記』に天正6年(1578)10月1日

の条に「十月朔日、住吉より御帰洛.安見新七郎所に暫し御休息なされ、二条御新造に至って帰路」と書いてあります。

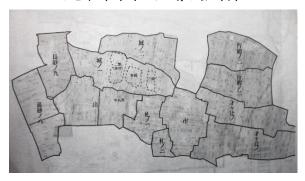


信長公が歩いた道?ほんまかいなぁへ

【構】私部弥生遺跡から石包丁が出たと聞いていますが 【考】何でもしってますなぁ、この遺跡名は私部「城」 弥生遺跡で、私部中央部の北端に位置し、私部城 線(町道)から北に四つの台地が突出していて東 から二番目の台地である。台地の北側には百々川 が東から西に流れ、その周囲に湿地帯を作ってい る。また私部、西側(交野駅付近)の小字を長砂 といいかって天の川の流域に条里制の跡を残して いて、城の北側も長砂とともに稲作文化と、とも に開花した地といえるだろう(昭和44年)。



石包丁 (上) ?・なた様石器 (下)

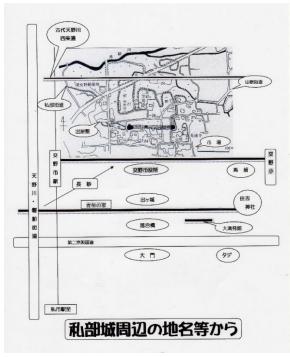


私部旧地名



条里四条通り





城と周辺地名に関わり、なにか伺いしれるかも・・・ 城~交野市役所~中町~畑中、蜻蛉~出が城~落合~ 私部南遺跡~大門 城周辺東に山根街道・百々橋~ 市場・馬浦・住吉神社・南遺跡から大溝・官田、タデ 西側、古代天野川四条通・私部街道・出屋敷・長砂・ス タコ (砂子)・鳥が坪・磐船街道 (168 号線)

私部城跡と安見氏年表

◆永禄 2 年 (1559) 12 月

安見右近が検断のため家来を枚方寺内に入部させる

◆永禄6年 (1565) 10月24日、

安見右近が畠山氏配下として大和で合戦に参加 (多 聞門院日記)

この頃、遊左信教から松永久秀へ右近が預けられた とみられる

◆永禄 10 年(1567)9 月 10 日

奈良市中の合戦で右近が負傷する

◆永禄 11 年 (1568) 1月

松永久秀が津田城に入る。南山城から北河内の交通 をおさえた久秀の配下として安見右近が私部城を築 いた可能性在り。

◆永禄 12 年 (12569) 2月

安見右近が領知する星田より日御米が未納のため、 石清水八幡宮が幕府に訴えをおこす。

◆元亀元年 (1570) 10月20日

三好三人衆に対抗した織田方の勢力として、「片野 (交野城)の安見右近」が記されている。この頃 右近が佐久間信盛の娘と婚姻したとみられる。

◆元亀2年 (1571) 5月10日

安見右近が松永久秀に呼び出され、奈良西新屋で切 腹に追い込まれる。

同日に松永親子が私部城を攻めるため出陣する。

5月12日、私部城が松永久秀・久道に攻められる が持ちこたえる。

5月27日、松永親子が多聞城へ帰城する。

6月6日ごろ、交野の相城に松永軍の一部はとどまっている。

◆元亀3年(1572)4月16日

織田方の佐久間信盛・柴田勝家らの援軍が私部の松 永軍を包囲する。

4月17日、松永軍の入る私部の相城の1つが織田 軍に落とされる。

4月27日、私部城が堅固であるため、三好義継が 安宅神五郎に援軍をもとめる。

4月28日、松永軍の津田の付城が陥落する。

◆天正3年 (1575)

織田信長が河内を平定する。

私部城廃城の可能性あり。

◆天正6年 (1578) 10月1日

織田信長が堺から京都への帰り道に「安見新七郎 所」(私部城) で休息をとる。

◆天正9年 (1581) 2月5日

信長の京都馬揃えにおける取次者として安見新七郎 の名前がみられる。

◆天正 10 年(1582)

私部は豊臣蔵入地とされる。

星田が豊臣家臣の市橋長利の領地となり、石清水八 幡宮に日御供米を収める。

発掘調査から

- ・地中に埋没した堀と曲輪が発見された。
- ・交野台地の地層を利用して曲輪としていることが わかった。
- ・高さ1〜以上の盛土が広範囲におこなわれていた ことがわかった。
- ・こうした盛土は堀の堀削で生じた排土を利用した もの。
- ・自然地形を巧みに利用しつつ、土木工事を行うこ とによって城が築かれていたこと。
- ・出土した瓦、本郭や二郭周辺を中心として、城の 広域で瓦が見つかっている。
- ・瓦は廃絶時の土坑などから、出土しており、城の 建築に伴っていたものと考えられます。
 - ・特に、軒平瓦の中には、若江城(東大阪市)にあった瓦と似たものが確認されています。
 - ・歴史上の関係の深い若江城とのつながりを考古資 料からも裏付ける。



軒平瓦 (若江城と同范)







百々橋



鳥ヶ坪橋 (十坪?)



畑中と蜻蛉の標識







私部南遺跡の大溝、私部城関連施設?



この地域宅地開発がすすむ・タデ (舘)、官田 今回も【隣】となりの何んでや、おっさんに参加して いただきました。【考】おっさんの何んでや、素朴な質問 にわかりやすく答えることができればと思います。 参考資料

交野市文化財だより (第23号) いま、甦る!!私部城 教育委員会 その他、市教育委員会発行の講演会資料

次号 10/25